



夢の本棚

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】 ①絵本の楽しさを伝える <親子読書の奨励> ②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える <絵本文化の研究>
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える <絵本文化の継承>

『びびものとも』に込めた思い⑨ 本格的な物語絵本の出版を

『創刊号』の誕生

◆子どもが言葉というものといっしょに本を楽しむといえますか、見るといっしょに体験をすることが、いかに子どもは関心が強いんだなあってことを感じて、私は本格的な物語絵本を作ろうと思って、一九五六（昭和31）年の4月に出したのが『びびものとも』（創刊号）です◆それまでに物語絵本っていうものが、日本では全然出ていない。月刊の物語絵本では出てないから、月刊で物語絵本を出したらどっちからも文句を言われないだろうと、世界的に見てもないわけですから、このオリジナルな企画で出版したわけなんです。

与田準一先生と堀文子先生

◆そこで、一番最初に選んだのが与田準一先



生。先生は、北原白秋の高弟ですからほんとに親しみをもって童話や童謡なんかもお願いしておりましたが、先生の日本語を活かしたいと思いました◆挿絵の方は、堀文子先生です。



先生や絵本誌の場面や童謡に挿絵をつけてるんですけど、先生の絵は、ほんとに美しいと感じました。

パントマイムを観て

◆ある時、フランスから日本に来た世界的なパントマイムの芸術家、マルセル・マルソーの舞台を堀先生と穂田一穂先生の3人で一緒に観に行っただんです◆マルソーの一番の出し物は「蝶」だったんです。それはほんとに感動し



ました。言葉は何にもないですからね。パントマイムですから全部死んでいくような有様をマルソーが演じるんです。

「蝶」を絵本にしたい

◆与田先生の所へ絵本のお願ひに入ったら、先生が「マルセル・マルソーを書いてもいいですか」とおっしゃった。びっくりしました。「ご覧になったんですか」と言ったら、「はい、見ましたよ。蝶に感動しました。あれを絵本にしたい」とおっしゃるんです。私はもう大賛成です◆それで、与田先生が蝶を物語に『ビップとちようちよう』というのを書いてくださったって、それを堀先生にお願いしたら、先生も大喜びで描いてくださったんです。

「平和の春」

◆この本の中で「平和の春」というのが書いてある。この頃、私たち日本人が一番考えていたのは「平和」ってことです。それから「春」という二つを結び付けて、「戦争」ってものを本当に否定したい、何としても「平和」、そういう世界をこれから作っていきたいという気持ちがあったんです◆先生は「平和」とって言葉を何回もお使いになって、堀先生も大賛成だったんです。先生のご主人が、日本の外務省の外交官で有名な箕輪三郎先生でした。その箕輪先生がお訳しになったのが、カントの『永久平和』なんです。それで、堀先生も「平和」というようなことを真剣に考えていらっしやうなんです。

絵本を描きたい

◆と同時に、先生がおっしゃったのが「絵本は

ほんとに描きたいと思えます。展覧会の絵っていうのは出しましても、限られた人しか見てもそうです。ところが、絵本というのは何万て刷るんですよ」とおっしゃるから、「そうしたいと思えます」と言っただんです◆舞台は上高地。力を込めてお描きになって出来上がった表紙が真っ黒。私はこの表紙が気に入ってましたんですけど、本屋さんで言われたことは「こんな暗い本は売れません」とおっしゃった。地方の方でも、あんまり評判は良くなかった。地方の方でも、あなたんですけど◆でも、島根県の山奥の保育園から手紙が来ました。「子どもがとっても喜んで」と。今でもそれは、私にとってもありがたいと思います。最高に嬉しかったです。ほんとに涙が出るような喜びでした。



(つづく)